

12月13日に70回生によるポスター発表会が各ゼミで開催された。中間発表会の際に諸先生方から頂いたアドバイスや、ゼミ内の仲間から受けた質問を活かしており、以前よりも完成度の高い発表が目立った。

1月に控えた学校公開を意識した班も多かったように思われる。

今号では、各ゼミの発表の様子を記載する。

物理ゼミ

前回の発表会に比べ、内容が具体的且つ簡潔にまとめられた発表が増えた。その反面、研究の趣旨が聴衆に上手く伝わらないとゼミ担当者からご指摘を頂戴した。分かりやすく伝えるために、研究結果・考察だけでなく序論・仮説にも一貫性を持たせた、説得力が増す文章説明が求められる。

化学ゼミ

質問は非常に多く出ていて、学術的な正確さを求められるものもあり、今後の研究の発展につながるのではないかと感じた。各班の発表内容では、何とか結果を出そうという姿勢は見られたが、内容に矛盾があるものがあつたので落ち着いて見直してほしい。ポテンシャルを感じる研究もあるので、進展に期待。

生物ゼミ

生物ゼミは、対象が動植物や自然などであるため、考えていたのと違うデータが出る班が多々あつたが、そこから考察し結論を導いていた。ただ、データ不足の班も多いため、追実験などで精度を高める必要がある。

先生方から頂戴した講評は、研究結果をいかに相手に伝えるかが大事だということだった。

地学ゼミ

どの班も実験や観測をしっかりと行った上での成果を発表していた。今回の発表会では、生徒が実験方法や値の意味についての質問を、自発的にたくさん発表者にぶつけていた。

ゼミ担当者の野町先生と菊池先生からは、実験方法を明瞭にすることと追加実験についてなどの厳しくも愛あふれるアドバイスを頂戴した。

国語ゼミ

全体として質疑応答が活発に行われていた。質問に対する答えも筋が通っており、予想できる質問に対しての準備が万全であったと言える。また、最初の頃テーマ決定に苦戦していたとは思えないほど内容の濃い発表だった様に見える。だが、班内の全員が全ての知識を共有している班はごくわずかであった。ここからは情報の共有と取捨選択に重きを置き、研究とポスター作りに精を出し、より洗練されたものを作り上げていって欲しい。また、「自分たちの班が口頭発表会に出るのだ」という競争意識を持つこともゼミのレベルアップにつながるだろう。実に有意義であった。

情報ゼミ

1班あたり質疑応答を含めおよそ10分を目安にして発表を行った。各班、研究の成果が顕著に表れていたもので、有意義に研究を進めることができているのだろう。だが、菅野先生からのコンピュータ並みに正確な指摘を受け、まだまだ研究の詰めが甘いと実感した。ここから研究を進める時間はあまり無いが、各々の課題を解決させることが出来るのではないだろうか。限られた時間で出来る限りあがいてみたい。

公民ゼミ

ゼミ内での発表ということもあり、多少リラックスした雰囲気で行われた発表会。発表時間の上限は10分だったが、10分を軽々と経過してしまう人が続出した。これは坂本大二郎先生の言葉にもあったように、各々が自分の研究に打ち込み、その経過を余すことなく発表した結果であったと思う。また、一人の発表者に対して聴衆は16人という形式だったのに質問は一つしか上がらなかった。改善が必要。

数学ゼミ

多くの方がゼミ担当者である山口先生の鋭く的確な質問にバタバタと薙ぎ倒されていた。師からの、「高校内容外の知識を用いる際は簡単に説明できるようにすべし。」というアドバイスを心に刻んで、これからも研究に精を出したい。また、ポスターのレイアウトも工夫すべしとのこと。

保体ゼミ

発表の雰囲気は非常に良いもので、各々真剣に各グループの発表に聞き入り、質問も活発に行われていた。ただ、質問に対し満足のいくような回答になっていないグループが多かったことは少し残念だったが、今後の研究につなげられる違った視点からの意見を得ることができる発表会になった。

音楽ゼミ

発表会は家庭科ゼミと合同で行われ、計7班が発表した。音楽ゼミでは、「音楽」というものを軸に、CMや映像、果ては生物まで「音楽」に捕らわれることなく、多角的な面からの発表、意見が交わされた。

地歴ゼミ

各個人がこれまでの研究をうまく伝えようとしていて、創意工夫を多く見ることができた。発表するときは、周りにうまく伝えられるように具体的な例など付け加えたり、大きな声で説明したりと、中間発表のときとは明らかな意識の変化が見られた。聞く側も発表者の良い点を吸収しようとしたり、質問するために集中していたりした姿を見ることができた。

英語ゼミ

英語ゼミのテーマは非常にバリエーションが豊富で、教育、文学など幅広い視野で英語の在り方を見つめていた。

しかし、先生方から原稿を読むのに精一杯でジェスチャー等で聞き手に伝えたいという意思の欠如が見られると指摘された。

家庭ゼミ

音楽ゼミとの合同発表会で、家庭科ゼミ以外の人からの意見を聞くことができた。先生やOBの方から「原稿を読みがちである」とのご指摘をいただいた。また、発表は滞りなく円滑に進んだものの、質疑が活発に行われた訳ではなく改善すべき点も多く見られた。

編集後記

ゼミによって発表の工夫に差異があり、まだまだ改善の余地があるということを感じさせられた。自分たちの研究が価値あるものであっても聴いている人に伝わらないと意味がない。

中間発表が終了したが、学術研究もいよいよ終盤である。今回の反省を踏まえてさらに良い研究をしていきたい。

